

目次

1. 寄稿 「環境的に持続可能な交通を目指して」(第1回)
「“環境的に持続可能な交通”を目指して」
【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員長 太田勝敏】
2. 寄稿 「地方から全国に向けた情報発信！」(第1回)
「札幌の都心交通の目指すもの」
【札幌市市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心交通担当課 都心交通担当係長 久米田 真人】
3. ニュースノトピック
神戸 EST 省エネルギー詳細ビジョン策定委員会が開催されました。【神戸市】
テレビCM 及び街頭大型ビジョンによる情報提供【松山市】
松山市環境にやさしい交通まちづくり学習の実施【松山市】
小学校でのTFPの実施【福山市】
箱根の観光を支える交通インフラ整備について【神奈川県】
2020年と2050年の脱温暖化交通シナリオを提示【脱温暖化2050研究プロジェクト】
第一回日本モビリティ・マネジメント会議の発表資料を掲載【日本モビリティ・マネジメント会議】
富山ライトレール乗車人員調査結果(速報)【富山県交通政策研究グループ】
運輸部門の本格的なCDMプロジェクトの方法論を初めて承認【国連のCDM理事会】
4. イベント情報
さっぽろシャワー通りリニューアルイベント (サブタイトル)クルマを置いてまちをあるこう
ヨーロッパ・モビリティウィークおよびカーフリーデー
横浜カーフリーデー2006
第5回さいたまSMARTプランセミナー
第78回交通工学講習会(大阪) 交通まちづくり～世界から考える、地方から考える～
子供トリップチャレンジ
第3回LRT国際ワークショップ - ライトレール導入による人と環境に優しい街づくり
全国オムニバスサミット in 岡山
エコドライブ推進月間
5. その他
記事募集中！

1. 寄稿 「環境的に持続可能な交通を目指して」(第1回)

「“環境的に持続可能な交通”を目指して」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員長 太田勝敏】

(東洋大学国際地域学部教授)

EST(Environmentally Sustainable Transport)は今や世界の交通政策に共通する主要課題となっている。持続可能性は環境面だけでなく、経済面、社会面の三つの側面から対応すべき課題であると一般に認識されている。交通の場合は、経済的な持続可能性は安全で便利で快適な交通サービスが最も効率的にかつ安定的に提供されること、そして社会的な持続可能性は公平性の視点から社会参加に必要な一定水準の交通サービスがどこに住んでいようとすべての人々に、特に貧しい人、高齢者・障害者・子供たちにも確保されていること、を意味している。

環境的な持続可能性は、この経済、社会の側面に加えての要件であり、当然なことながら交通政策はこれらの三つの側面のトレードオフを踏まえて、適切なバランスの下に進めていく必要がある。ここで重要なことは、交通が私たちの生活、社会経済活動を支える不可欠なものであること、そして同時にそのような人間活動(ヒューマン・アクティビティ)の仕方が必要とする交通のありようを規定していることである。このように交通と社会との関係を考えてESTをはじめ持続可能性は、交通政策の目標というよりはその制約条件として認識すべきであり、持続可能性の要件を満たした上で、どのような社会を実現したいのかが自分たちの生活、社会経済の目標が問われている政策課題と言える。ESTを推進する上で、交通と特に関連する政策分野としては、環境、都市づくり、健康・福祉があり、これらの政策と連携して進める統合交通政策が重要である。

ところでESTに向けた交通政策の焦点は自動車交通による環境負荷の削減であろう。単体対策による省資源・省エネルギー、排出削減が基本であるが、自動車・燃料技術の進歩にもかかわらず交通需要増加の下ではESTの達成は困難とされている。特に予防原則の下に大規模かつ長期的全地球的対応の必要性が指摘されている地球温暖化問題を考えると、ライフスタイル、ビジネススタイルなど社会経済の仕組みを含めて人間活動そのものについての見直しが求められているのが現状である。

このようにESTへの取り組みは、幅広く継続的に、他分野と連携して、市民・国民、企業、自治体・政府など社会全体で協働して取り組むべき課題である。困難ではあっても、日本が先導すべき人類共通の課題への挑戦でもある。

2. 寄稿 「地方から全国に向けた情報発信！」(第1回)

「札幌の都心交通の目指すもの」

【札幌市市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心交通担当課 都心交通担当係長
久米田 真人】

札幌市では、都心を対象に EST モデル事業を進めている。なぜ都心をターゲットに交通対策なのかというと、平成 13 年度に札幌市が市民に向けて提案した「都心交通ビジョン」にさかのぼる。このビジョンでは、必要のない自動車はできるだけ都心に入れないという考えで、都心の骨格軸である大通と札幌駅前通を完全に歩行者モールにすることなど大胆な提案を行った。ヨーロッパの都市のように、中心部の自動車利用を抑制するというアイデアであったが、運輸事業者や商業者から大きな反発があった。結果としては、このビジョン以降「都心の交通をどうしたらいいか」という議論が高まったといえる。最終的には「人と環境を重視した都心交通の創出」と「都心の活性化に寄与する交通施策の推進」という二つの目標を持つ計画ができた。

都心から車を締め出すことを目的とするのではなく、車の利用を認めながらも、都心を訪れる市民にとって、いかに快適で魅力的な都心をつくるかが課題となっている。

都心交通ビジョンの議論から約5年が経過し、商業者・運輸事業者の協力もあって、成果が少しずつ出てきている。事業者に対し「がまん」を強いるのではなく、社会実験などを通して、それぞれの立場の「メリット」を見つけてもらう取り組みを進めている。都心の活性化が、車に頼らないライフスタイル、ひいては CO₂ 削減などの環境改善につながると考えており、都心でまず何ができるかを日々模索している。

3. ニュース/トピック

神戸 EST 省エネルギー詳細ビジョン策定委員会が開催されました。【神戸市】

平成18年8月11日(金)に第1回「神戸 EST 省エネルギー詳細ビジョン策定委員会」が開催されました。

当委員会では、神戸市で平成17年度より設置されている「神戸市 EST 推進協議会」で検討された、「神戸の都心地域における『環境的に持続可能な交通体系 (EST) の確立』に向けての基本的な考え方と施策の基本方針」に対して、重点施策の抽出・具体化の検討及びエネルギー削減量の試算について検討を行っていきます。

テレビ CM 及び街頭大型ビジョンによる情報提供【松山市】

松山市では、愛媛県内を放送対象とするテレビ CM 及び松山市中心商店街に設置されている街頭大型ビジョンを活用し、公共交通の役割及び必要性、並びに「松山市オムニバスタウン計画」の取り組みについて分かりやすく製作された CM を放送し、広く市民等への周知を図ります。放送期間は3ヶ月間(10月～12月)の予定です。

松山市環境にやさしい交通まちづくり学習の実施【松山市】

松山市では小学生を対象に今秋、総合学習を活用した公共交通の乗り方教室及び校外学習による公共交通乗車体験を実施し、環境に関する知識の向上及び地球温暖化問題を意識した交通まちづくりへの参加意識向上を目指します。

小学校でのTFPの実施【福山市】

福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会は駅家西小学校と連携し、5年生の2学期における総合学習(環境問題)においてTFPを実施し、渋滞緩和とCO2削減を目的に保護者のマイカー通勤の見直しに取り組みます。

箱根の観光を支える交通インフラ整備について【神奈川県】

神奈川県では、国際観光地「箱根」における観光を支えるため、交通インフラの主要な結節点である箱根湯本地区、元箱根・箱根地区、湖尻・大涌谷地区の3つの拠点について、交通ネットワーク機能を充実させ、来訪者にゆとりを持って箱根の魅力を堪能できるように様々な取り組みをスタートします。

その第一弾として、箱根湯本地区では、駅舎の改修整備と併せ、国道1号の横断デッキや駅前広場などの一体的な整備に取り組みます。

詳細 <http://www.pref.kanagawa.jp/press/0607/27069/index.html>

2020年と2050年の脱温暖化交通シナリオを提示【脱温暖化2050研究プロジェクト】

平成16年度から5年計画で始められた「脱温暖化2050研究プロジェクト」では、わが国の研究者約60名が協力して、2050年に至る温室効果ガス削減のシナリオとそれに至る環境政策の方向性を検討しています。17年度報告書で、交通部門CO2削減策として、2020年時点ではハイブリッド車の大量普及が有望であるが、それだけでは1990年レベルに戻すにとどまること、削減するためには、交通需要面の対策が必要であることが指摘されました[2020年の脱温暖化交通シナリオ]。

また、中長期的な交通部門のCO2削減策として、車両、燃料の改良とともに、モーダルシフトや徒歩・自転車の活用およびそれを可能とするまちづくりを含む施策の組合せが必要であることが指摘されました[2050年の脱温暖化交通シナリオ]。

プロジェクト詳細 <http://2050.nies.go.jp/> (17年度研究成果報告書は追って掲載予定)

第一回日本モビリティ・マネジメント会議の発表資料を掲載【日本モビリティ・マネジメント会議】

去る7月8日～9日に第一回日本モビリティ・マネジメント会議(主催:(社)土木学会、国土交通省)が開催され、政策基調講演、海外招待者講演、事例発表(口頭28件、ポスター35件)などが行われ、約300人が参加しました。このたび、その発表資料等がホームページに掲載されました。 <http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/jcomm/>

富山ライトレール乗車人員調査結果(速報)【富山県交通政策研究グループ】

富山県交通政策研究グループ(県職員による自主研究サークル)は、RACDA 高岡会員等の協力を得て、富山ライトレールの7月7日(金)の始発から終電までの全列車に乗車し、利用者数をカウントしました。調査結果(速報)はグループホームページでご覧になれます。
<http://www1.tcnet.ne.jp/kusunoki/koutuken/>

運輸部門の本格的な CDM プロジェクトの方法論を初めて承認【国連の CDM 理事会】
京都議定書ではクリーン開発メカニズム(CDM: 開発途上国への先進国の技術・資金等の支援により実現された排出削減量を、当該先進国の削減量として計上できる制度)が認められていますが、運輸部門では本格的な CDM プロジェクトの承認・登録はなく、その前段階の方法論の承認実績においてもありませんでした。

2006年7月19～21日に開催された国連の CDM 理事会においてコロンビアのボゴタの Bus Rapid Transit System(バス専用レーン、連節バス、プラットフォーム式バス駅を導入したバス交通システム)の方法論が承認されました。開発途上国での今後の EST 展開を期待させる画期的な一歩といえます。

詳細(a) UNFCCC 第 25 回 CDM 理事会レポート(英語)

<http://cdm.unfccc.int/EB/025/eb25rep.pdf>

(b) 方法論(承認方法論番号 AM0031)の内容(英語)

<http://cdm.unfccc.int/methodologies/PAmethodologies/approved.html>

4. イベント情報

さっぽろシャワー通りリニューアルイベント (サブタイトル)クルマを置いてまちをあるこう

日時: 2006年9月2日(土)、3日(日)

場所: 札幌市中央区南1・2条西3丁目

実施主体: 地元商店街、札幌市、地球温暖化防止活動推進センター

概要: 違法駐車防止、荷さばき対策、さらには都心の賑わいを創出するための道路空間活用など、これまでの都心交通に関する取り組みを実現した「さっぽろシャワー通り」の再整備完了にあわせ、地元が主体となったりリニューアルイベント、札幌市が主体となったこれまでの交通施策展開の PR、地球温暖化防止活動推進センターが主体となった EST モデル事業の PR を合同で実施します。

ヨーロッパ・モビリティウイーク

実施時期: 2006年9月16日～22日

実施場所: ヨーロッパを中心とする都市

8月21日現在 正式参加都市 195、支援都市 202

今年のテーマ: 気候変動

詳細 <http://www.mobilityweek-europe.org/> (英語)

カーフリーデー

実施時期: 2006年9月22日

実施場所: ヨーロッパを中心とする都市

8月21日現在 正式参加都市 448、支援都市 94

詳細 <http://www.22september.org/>(英語)、またはカーフリーデー 日本コーディネーターのホームページ <http://www.cfdjapan.org/>

横浜カーフリーデー2006

実施時期: 2006年9月23日(キャンペーン等は16日から)

実施場所: 横浜公園、日本大通、イセザキモール5丁目の3カ所

実施主体: 横浜カーフリーデー実行委員会

詳細 <http://car-free.cocolog-nifty.com/>

第5回さいたまSMARTプランセミナー

日時: 2006年9月28日(木)15時~17時

場所: 彩の国8番館 インフォメーションルーム(さいたま新都心駅 徒歩3分)

主催: さいたま市

概要: 「利用しやすい公共交通を目指して」というテーマで、講演、事例発表等を予定

詳細 <http://www.city.saitama.jp/index.html> (9月1日掲載予定)

第78回交通工学講習会(大阪) 交通まちづくり~世界から考える、地方から考える~

日時: 2006年10月6日(金)

場所: 大阪科学技術センター 大ホール

主催: (社)交通工学研究会

詳細 <http://www.jste.or.jp/Event/kosyu78.pdf>

子供トリップチャレンジ

日時: 2006年10月15日(日)午前9時~午後5時(内トリップ時間は3時間30分)

集合場所: コムズ(松山市三番町六丁目)

主催: 温暖化防止まつやまネットワーク

概要: 市内の小学4~6年生のグループを対象に、自分達で考えたルートに沿って、バス・路面電車・郊外電車にできるだけ多く乗り継いで制限時間内に帰ってきてもらうといった利用体験や意見発表等を通して、公共交通機関の利用促進を目指します。

第3回 LRT 国際ワークショップ - ライトレール導入による人と環境に優しい街づくり

日時:2006年10月16日(月)~18日(水)

場所:京都リサーチパーク

主催:独立行政法人交通安全環境研究所

詳細 http://www.ntsel.go.jp/LRT_WS/LRT_WS2006.htm

全国オムニバスサミット in 岡山

日時:2006年10月19日(木)、20日(金)

場所:岡山コンベンションセンター

主催:岡山市

概要:オムニバスタウンに指定されている12都市や全国の自治体、バス事業者、市民等が参加して、バスを活かしたまちづくりについて議論し、バスの活性化策を全国に情報発信します。

エコドライブ推進月間

時期:2006年11月

実施主体:関係4省庁及び関係団体

概要:省庁、関係団体、地方自治体の連携により、シンポジウムや講習会を通じエコドライブの普及啓発を図ります。

5. その他

記事募集中!

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。EST、または「交通と環境」に関連する取り組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

E-mail: x x x x x

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局
(交通エコロジー・モビリティ財団)

E-mail: x x x x x

EST ポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>(2006年9月28日開設予定)